

テーマ：WC の児童擁護とこれから

はじめに…地域情勢

- ・ 5.27 栃木県佐野市生後 2 か月の男の子虐待死 お母さん逮捕
- ・ 緊急事態宣言解除後も外出自粛延長…DV や虐待リスク高、オンライン相談会増
- ・ 全国各地の児童相談所…現場 CW 悲鳴、件数激増、課題の重層化、CW 質の問題… 1.7 読売

○生活クラブ風の村・理事長の池田徹さんとの出会い

- ・ 一般社団法人ユニバーサル社会創造センター（現在：首都圏若者サポートネットワーク）からお誘い…
- ・ 社会的経済セクターで社会をより良くしていく為の組織旗揚げ…社会的養護下にある子どもたちの自立…
- ・ 池田さん自身…児童養護施設、乳児院、千葉子ども応援団立上げ、里親支援の強化…
- ・ 子ども食堂のムーブメント…社会的養護下の子どもたちが忘れがちに…
- ・ 地域包括ケアシステムで地域で誰もが安心して暮らし続けられる社会…忘れがちが社会的養護下の子ども…
- ・ 研究会発足…協同組合の仲間、研究者、現場の実践者、行政…議論研究を積み重ね…

※1)基金造成（若者おうえん基金）、2)助成金給付、3)就労・キャリア支援、4)調査研究・政策提言

保護者のない児童や、保護者に観護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援をおこなうことを「社会的養護」と言います。かつて、児童養護施設は孤児院と呼ばれ、戦災孤児や親の事業で一時的にそこで過ごす子どもが多かったのですが、現在、過半が被虐待児です。被虐待児は、親のもとで暮らし続けると命の危険がある場合も少なくないため、児童相談所が保護をしたうえで、社会的養護を受けることになります。児童相談所の虐待件数は、2018 年度で 15 万件を超え、毎年 100 人近い子どもが虐待によって亡くなっています（首都圏若者サポートネット設立趣意書一部抜粋）

○清瀬市子供の家（児童養護施設）施設長早川梧司さんとの出会い

- ・ 社会的養護の課題に WC と社会がどう向き合っていくのか…
- ・ 常識を疑い、本質を見極める力を養う（里親制度、虐待通告の増加など）
- ・ 福祉業界の狭さ、利用者・働く者の希望や展望が持てない現実をどう超えていくのか…
- ・ 空き家対策 社会的養護を出所した子どもたちの住まいとして… 改修費補助と家賃補助

※福岡市子育て見守り（スマイル）訪問員派遣事業 2012 年 7 月 WC 初

→福岡市子ども総合相談センター（児童相談所）に市民から寄せられる「鳴き声通告」を基に家庭を訪問し、安全確認と移送。

※自立援助ホーム「オーレの家」 2016 年 3 月群馬県 2 か所目の自立援助ホーム WC 初 定員 5 人

→親の虐待や経済的理由等で家庭で暮らせない子どもが自立に向けて共同生活を送る場所。15 歳～20 歳(大学 22 歳)。児童福祉法。

※189（いちはやく）大阪府豊中市 2016 年～48 時間以内に家庭訪問

1. 江戸川区児童相談所(はーとぽーと)夜間深夜電話相談業務立上げ

(1)総対話行動・自治体行動から

- ・2018.7.31 江戸川区にはじめて一人自治体行動…
- ・育成課(児童館等)→児童女性課(子ども食堂・学習支援等)→児童相談所開設準備担当課を紹介…
→2020 年児童相談所を江戸川区開設(2 年後) 日中相談や一時保護は直営…
→江戸川区は虐待通報多・都内 1 位～2 位・相談所が困っている…
→2017 年 6 月から 9 月頃福岡市に視察 「鳴き声通告」を「委託」と聞いて驚き WC 名前聞いた…
→福岡市「鳴き声通告」の具体的な内容を知りたい 通報後対応/訪問タイミング/人材確保/研修/連携…
→休日夜間の電話相談内容…福岡市や大阪府豊中市の資料欲しい…
→WC の理念に共感! 1)江戸川区民は地愛精神高い区民多、2)虐待無社会、3)住民自治と安心安全な街
- ・九州沖縄事業本部本部長星平さん、九州子育てアドバイザー山口先生にも江戸川区に…

(2)夜間深夜電話相談業務公募と企画書挑戦…成果に!!!

- ・2019 年 11 月公募 12 月プレゼン
- ・東京東部成田誠本部長中心に…7 人の中心メンバーでチームで企画書作成プレゼン…
- ・江戸川区児童相談所開設計画、東京都福祉保健局少子社会対策部課長講演、児童福祉法等…猛勉強
- ・九州福岡山口先生と統括東江先生(子育てアドバイザー)の多大なご尽力…福岡児相にも研修視察…
- ・江戸川区 70 万人、町会自治会強、支え合い精神、環境問題を立場を超えて運動をおこし乗り越えた
- ・外国人移住者多、虐待件数 23 区多水準、困難を抱える家庭や養育不安を抱える保護者増大等…

(3)新しい仲間を募る時の教訓…

- ・地域社会の前向きな変化点…「一人ひとりの子どもが育つ社会づくり」—それには地域みんなの力が必要…
- ・この仕事の意味に、「イノチをつなぎ、地域と未来をつくる仕事」をテーマに募集…100 名以上応募。希望…
- ・地域で心を痛めている課題の一つが虐待…虐待がおきない地域をつくりたい…
- ・「仕事の持つ意味」や「理念」を前面に打ち出し、「社会連帯」を前面に掲げ、子どもたちを地域の人たちと…
- ・地域とつながることがワーカーズコープではできる…立上げから江戸川区内に社会連帯でみんなのおうちを…
- ・全国の児童相談所はどれもパンク状態…まず実態を聞こう…
- ・協同労働じゃないとできない仕事…感銘を受けた佐藤洋子さん(統括総務経理)が立上げに移籍…

(4)立上げ後… 統括責任者内藤郁代さん

- ・4.1 以降、コロナ禍でも変わらずに毎日休みなく…
- ・経験無…学童・児童館・保育園等の経験…様々な背景のある子ども・保護者・家庭に地域と繋がり…手を差し伸べてきた
- ・約 50 件/4 月、80 件/5 月…鳴き声通告、身柄通告、警察からの一時保護要請…
- ・他に…単純相談、病気への不安、発達障がいの子どもの暴力、保護者自身の悩み相談等…
- ・お母さんの気持ちが落ち着くまで…1 時間相談を聞く状況も…傾聴…保護者の相談を受け止める…
- ・昼間の児相に取次ぐつなぐ気をつかう事業…調整員の役割…そのスキルを挙げて…地域交流も…
- ・地域のママたちの WS、開かれた児童相談所…1 階に子育て広場 6.1 オープン…みんなのおうち…
- ・台東区谷中でもショートステイ立上げ…虐待防止早期発見…虐待のない地域づくりの一端として…
- ・社会連帯・オール東部で成功を…共育プラザ平井の仲間と共に…

※江戸川区児童相談所から新しい提携事業の話も…メンタルフレンド事業…

■東京都福祉保健局訪問(自治体行動)

- ・23区と三多摩市町村… 1) 児相開設への問題意識、2) 都内で虐待をなくす為に…
- ・17区は各準備…個別に情報収集を…港区や中野区と…3区開設後も連携や注視…
- ・予防の力を入れる… 1) ゆりかご事業、2) 1歳ペース事業、3) 地域での見守り…
※子ども食堂助成24万、子ども居場所創設事業(食事や学習等)に力を入れて
- ・児相をより公的なものに ※一時保護所…現在入所率114%…3区で70人…広域体制は東京都仲介…
- ・一時保護所…3区70人定員…現在入所率114%…広域体制は東京都が仲介…2020年トライアル会議システム
- ・より地域に近い区市町村…軽微なものについては寄り添いながら現認もし支援をしていく流れに…
- ・件数の数は伸びているが8割9割は助言…比較的重篤度が高くないケースをWCさん等に…
- ・ショートステイ等地域メニュー提供…地域子育て支援拠点…中学校区1ヶ所設置…地福に…ショートや緊急一時預かり

2. 全国の仲間の実践

(1)旭川地域福祉事業所一北門児童館

- ・10年前の子どもの現状 1)ネグレクト姉妹・異臭 2)母子家庭・援助交際 3)祖母家庭・食事困難・不登校
- ・10年後の子どもの現状 1)不登校・食事困難 2)タジ強盗 3)祖母亡くなり家で一人になって自死
- ・いま関わっている子どもの命が本当に保障できない社会 子どもの命が崖っぷちにある現実
- ・18歳A君 児童館だけでは支えられる生活ではない 大人食堂のメンバー等で自立援助ホーム立上げへ
- ・私の十字架は…7・8年前に出会った男の子 児童館職員の範囲を超えている…
→手放してしまい数ヶ月後少年院…言われたことをいいわけにしながらも…重く心に今もある
→いまだったら「どんなことがあっても見捨てないよ」「ほおっておかないよ」
→その一言を言えないまま彼を大人にしてしまった… 常に覚悟が問われていると思っている…
- ※子どもの困難に介入しよう!!! ファーストペンギン今井一貴物語 旭川からの挑戦 大人が問われている…
- ※現在と子どもたちの10年後20年後を具体的に見据えながら仕事をしていく… 古村連合会理事長
見通せない現実や社会や地域の変化にどう対応…根源的なところを据えて学びや育ちを…

○協同労働の子育ち指針

- ③子どもの願いや課題を真ん中にすえた、生活まごとの仕事おこし・まちづくりをすすめます
- ・子どものSOSをキャッチできるアンテナを高めます
- ・子ども、親の願いや困難に向き合い、まごとの仕事おこし、まちづくりに挑戦します
- ・地域の市民や行政とも協同した、社会連帯のまちづくりをすすめます

(2)旭川とくさんの家(みんなのおうち)

旭川児童館の組合員が立ち上げたとくさんの家は、子ども食堂を通じて、組合員と地域住民のボランティアが仲間になって、形になったものだ。包括支援センターのボランティア「ハートフレンドの会」の20〜30人の方々とみんなのおうち構想に共感して、拠点を探そうと地域中歩きまわり、無償譲渡で1軒屋を譲渡してもらい、ワーカースペースの放課後等デイ「カムカム」と地域共生拠点みんなのおうち「トクさんの家」が同居している居場所が生まれた。社会的養護下の子どもの居場所にもなっている。ある日、その子どもが入院して帰ってきた時、ハートフレンドの会の人たちが、「お帰りよく帰ってきてくれたね!」の一声に、「私ここにいていいんだ…」と思うように…。多世代交流、地域食堂、園芸作業や園芸療法、健康サロン…放課後開放では、地域の子どもの遊びにきたり、不登校の子どもがきたり…ごちゃまぜの居場所として、地域から湧き上がっている。組合員の協同労働のよい仕事と地続きでみんなのおうちの豊かさが生まれている実践だ。

3. 子どもの情勢

- ・子どものストレス 親の孤立 新自由主義路線での教育や社会...
 - ・増える不登校 暴力やいじめも増加 学校の「居心地の悪さ」 小中 16 万人以上 小学校で暴力行為 3 倍
→平成 25 年大坂桜宮高校で体罰で自殺→文科省厳格調査 ※春日市小中 650 人アンケート→6 割体罰有、さらに 4 割体罰無いと自信が無い
 - ・教員の若手いじめ→閉鎖的な学校空間 ※神戸市東須磨小学校 暴力・恫喝・暴行・ハワハラ 学校側は隠蔽 児童不登校 4 人...
 - ・子ども家庭支援センターの相談件数の増加...「学校と教師」 ※相談の主訴:不登校・万引き・金品・暴力等
→背景:発達障害児の増加 自閉スペクトラム症:発達の特徴、独特の理解や感じ方、様々な過敏、集団苦手、曖昧な言葉や急な変更が苦手など...
 - ・目黒、鹿児島、函館...大人の「子ども観・しつけ観」 痛みや恐怖を与えて教え導く対象?子どもは大人より一段劣っている存在?
- 虐待件数 2017 年 13 万 3 千 2018 年 15 万 9 千
- 潜在待機児童 7.3 万人 ※待機児童 1.6 万人の実態と乖離 世田谷・兵庫・さいたま...
- 2019.10~幼保の無償化 保育施設最低基準の緩和政策のまま無償化 待機児童増加と保育の質の低下
- 大人と子どもはパートナーシップとしての「子ども観」 ※子どもの権利条約「人間としての尊厳」、「権利の主体としての子ども」

■子どもの権利条約

- ・1989 年国連で採択 5 年後 1994 年批准 採択 30 周年 批准 25 周年の節目
- ・戦争で多くの子どもが無残にも殺傷された反省
- ・大人が子どもに最善のものと環境を与える義務があることが明確にされた
- ・従来の親子関係、学校など保護や管理の権威は子どもの成長を阻害することがあるとの認識を基本に構想
- ・大人がよかれと考える「子どもの最善」だけでは不十分であること
- ・集団で子どもをとらえるのではなく、一人ひとりの固有の存在と発達を大切にすることへの提起
- ・子どもを権利の主体として、その地位を社会的に保障しよう
- ・戦争や事件などの悲劇を繰り返さないという決意が「子どもを守り育てる私たち」 権利思想に発展

■子どもの権利委員会最終所見 世取山洋介先生（新潟大学准教授）

- ・子どもの生活のあらゆる面が劣化 「子ども期の貧困化」 3つの基底的な勧告
- ・「子ども期」の確保 競争社会が子ども期を奪う 労働市場の劣化、学校の競争主義強化、保育の市場原理
- ・子どもの意見表明権 子ども自身が成長発達していく 子どもの要求を理解し応答できる大人が不可欠
- ・子どもの保護 「包括的な」政策・戦略を 自殺・虐待・体罰・メンタルヘルス・環境等 市民社会の果たす役割

■深刻化する子育て・子育ちの困難

※子育てと子育ち(子どもを育てることと子どもが自ら育つこと)

- ・根っこの問題は、「新自由主義」 自己責任と受益者負担 非正規雇用の増大と家庭の不安定
- ・貧困・格差の深刻化 経済と社会(関係)の貧困 親や子どもの責任・病理として閉じ込める傾向
- ・社会的排除の構造が世代を超えて連鎖している 虐待 DV(ドメスティック・バイオレンス)等
- ・保育や学習、そして労働などが商品やサービスとして提供され、子育て・子育ちが私事化が強く
- ・子どもを社会で育てるという感覚を共有しにくい地域社会
- ・親や保育現場等ではリスク回避の意識が先立ち、子どもの生活全般を管理する傾向が強く
- ・「安心・安全」売り文句 きめ細かいサービス提供 教師など子どもの関係機関の担い手の多忙化
- ・子どもの命や発達を脅かす悪循環から子育て・子育ちの共同性の確保へ

※子どもの声を聴くということ...白鳥勲先生、村岡先生 次ページ

4. 子どもの声を聴く ～子どもと大人はパートナーシップの関係～ 子どもの権利条約の精神

■白鳥勲先生 ※学習支援 1,200 世帯訪問支援 1,500 人の子ども 99ヶ所拠点 670 人学生ホウ 社会人ホウ 150 人 スタッフ 80 人

- ・3 人/日 10 分/一人 立ち話で向き合わない 外を見ながら… 隣に座って話をしたり学習を…
 - ・子どもがわかった！と言ってくれた時の喜びを味わう 子どもの為…心地よさ・気持ちがいい… 背景には…
 - ・勉強とは…わからないことを発見したり、自分の世界・人生の選択肢を広げること… 偏差値ではないよ…
- ※**シングルマザー 7 人の子ども** 中 3～8 ケ月。小 4 の子どもが学習支援に…お母さんが困る！5 歳の子どもの面倒を。私が 5 歳の子に絵本を読んで面倒をみている。小 4 の女の子は優秀。何を教えるかという…甘えてもいいだよ…素直に甘えなさい…という場をどう作るか苦心。なぜなら中学生になったら荒れる子どもを散々みてきた。貧困世帯の共通点は、困った時に相談できない。わからないことがあっても質問できない。何でそうなるか…幼少期から不快なことがあってもなかなか解決してもらえなかった。教えてくれる大人が身近にいなかった。嫌だと言った時に、解決できる大人がいることが子どもの人権の基本。互いに頼りあることの大切さ。それを幼少期から経験すること。(割愛)だいたい問題なんて起きるのが当たり前。明日は違う問題がある。今日もきちんと問題があった…というような形で帰れるような同僚や職場、仲間との関係を築いていくことが大事。
- ・対話が大切 悩み・感じた事・嬉しかった事等を記憶に残す 自身で整理 できない所を大人がフォロー
 - ・生徒一人ひとりと毎日対話をくり返すことで生徒との信頼を築く 対話をすることは見捨てないこと
 - ・1)子どものエピソードを職場で語る 2)心の重心を子どもに置く・背景を知る 3)社会状況を学習し続ける
 - ・結論…みんなのおうちがないとダメ！ 子どもが困った時に勉強を教えたり、弁当を食ったり、送迎、悩み事を聞いたり…小学校区単位で。トータルとして子どもたちを支える場や地域が今すごく必要だ！実践の中で感じる

■村岡真治先生 ※今から 41 年前 1978 年ゆうやけこどもクラブが発足 「放課後等デイサービス」の草分け的な存在…

- ・光彦 全力疾走。ずっと走る。私の存在知らない。ビール瓶を撫でまわすのが大好き。ある時私の手をひっぱった…初めて自分の気持ちを私に向けてくれた…私を人間として…嬉しかった。お母さん…放課後活動をした日は落ち着いている。学校と家庭の往復だけでなく放課後活動の場であって生活のありようがガラッと変わって…子どもは大きく変わるんだな…感銘を受けた。放課後の活動の大切さ…
- ・京子 自閉症。朝から泣いて。要するに相手の気持ちを推し量ることができないから自分の気持ちをコントロールする力が弱いわけですね。止めると余計にやるような悪循環。京子は手先が器用…たこ焼き上手に焼く。放課後活動で、その子の気持ちの育ちにに応じたような遊びとか生活を十分に。そういう力を身に付けられることがある。それが卒業後の生活を支える。そういうものをつくり出して社会に発信する。
- ・誠 中 1 自閉症で高校まで手がかからなかった…急に耳をふさぐように…突然怒り出し、頭を叩いたり、肌に噛みつく…理由がわからない…自閉症？聴覚過敏？…ある時、冬に公園いく？耳をふさいだ！「嫌」…拒否の意思表示だと気づいた…自分の気持ちを突き出せるようになった…。食べるのが大好き。お好み焼き・ラーメン。つくってもったいった…怒る…もう無茶苦茶…お母さんが家では自分でカップ麺をつくる!あ～！自分がやりたい方法と違ってラーメンをつくった。お湯を捨ててラーメンをつくることを覚えた…経験によって自分の行動で折り合いをつける力を学んだ。問題行動には必ず理由がある。子どもたちを早わかりしない！考えながら実践をしていく
- ・ゆかり 小 3 自閉症の女の子。スケジュール通り行動する。間がもたない。迷う力や揺れる力が弱い。少しだけ見立て遊びができた。公園の砂場でカー遊び。クラブに戻ってホットケーキづくり?全速力で戻ろうとしたら急にしやがみこむ…公園に戻って砂場でカー遊びをする?全速力で公園へ。揺れて考える力を発揮できるんだな… ※運動会後学校に行かなくなってしまった…談
- ・子どもの問題行動の裏側にはその子の本当の願いや経験の中で折り合いをつける力を発揮したい願いが隠れている
- ・子どもの記録をまとめる。しゃべっているのは結構いい加減で文章にしてみると整理される。子どもを理解する上では大事な事
- ・遊びとか生活とかその子に相應しい形で展開し、揺れを楽しめる活動をつくり出す。子どもが自分自身でその中から自ら学ぶ
- ・牧まき先生（教育学者） 子どもの権利問題とは「常識」を問い直すこと…

○放課後等デイサービスの指標判定と報酬区分廃止を求める請願書

- ・制度の改善を促していくのなら、ただ変えて下さいではなく、記録をとり、実践を高め、社会へ訴えかける行動が大事
 - ・2004 年全国放課後連 障がいを持つ子どもの放課後の居場所づくり…署名活動 11 万 8 千筆 2008 年 12.25 クラスメイト参採択→2012 年制度化
- ※2 つの教訓 1)本当に必要なニーズ は忖度きをして必ず芽が出る 2)実践をつくって広げていくこと

5. 「虐待」と向き合ってこられた方々からの示唆

○川松亮さん（明星大教授）

- ・児相は子どもを守ることが使命…基本的に抑えることをしないとイケない
- ・予防大事(芽を摘む)…1)気が付く 2)情報をつなぎあう 3)連絡しあう…連絡や相談先、機関同士連携等
- ・ためらい…虐待じゃないかもしれない…誰が通告したのか明らかにしないことになっている
- ・相談できないで困っている…地域における考えられる事…地域の支えが家族の安定にかかわってくる
- ・ちょっと気になる子ども…子どもの問題は家族の問題…仕事無…家族や地域社会の課題が多発…

※[※] 消えた子どもたち 虐待・監禁の深層に迫る（NHK 出版新書）

中3女子 小学校から不登校 中3の3学期にお母さん逮捕 保護 幼い時に離婚 子どもが親 お母さんは不安定でリストカット 保護費の使い込み この子だけが支え…離れてほしくない… その子どもは大学進学後保育士に…その声「結局皆が皆自分のことだけで生きているんだな。誰も助けてくれへんねんな。なんで…どうしたのと何で声をかけてくれないのだろう…しんどい時に一緒に考えてくれる人…聞こえない SOS…聞こえない声…SOS に気づく…そういう社会づくりに…子どもの問題は社会の問題なんだと考えていきたい…。

○刀根由紀子さん（福岡市子ども家庭支援センターはぐはぐ）

- ・虐待パッシング…保護者や児相などの対応に報道が過熱しすぎている…
- ・虐待が起きる根本原因、本質的な要因は？…歯がゆさを感じている…
- ・市民がかかわっていく…一つは CAP プログラム…教えられる資格をぜひ持とう ※教育が大事
- ・学校だけじゃない…保育園も学童等も親を追い込む側にまわっているんじゃないか…見直しの提案…
- ・「公共」「子どもの権利」…市民のとり組みが決定的に大事…

○高橋亜美さん（アフターケア相談所ゆずりは）

- ・児童養護施設や里親家庭等の社会的養護下から巣立った方々が社会生活を営む上で相談ができる場所
- ・虐待した母親への支援プログラムでマイツリー・アレントプログラム6年目 13回毎回参加…親も苦しんでいる…
- ・自立援助ホームで出会ってきた子どもの声。大人になってからも苦しい中で生活…相談にきてくれる…

※子どもの気持ちに思いを馳せる朗読「うそつき」 僕はずっとうそつきと言われてきた。親にも学校の先生にも友達にも…みんなにうそつきと言われてきた。気づくと僕はうそをついていた。口が自分の口ではなくなったように。うそが次から次へとつらつらとでてきた。そんなにうそをついてどうするんだ！うその為にまた大きなうそをつかないとならないんだぞ！自分にっこみながら…でもうそをつくことを辞められなかった。僕の一番幼い時の記憶が幼い時のこと…お父さんとお母さんと僕の3人で飛行機にのってアメリカを旅行をしたこと…アメリカ旅行のことを友達に話をする…どうせまた嘘だろう！お母さんに聞いた！僕は5歳の時3人でアメリカにいったよね！…アメリカどこか家族で一度も旅行なんか行ったことないよ！…3人誰のこと？お父さんはお前が生まれる前に出ていっているんだ！お父さんと会ったことも見たこともないんだ！アメリカ旅行は僕の中でたった一つ嘘じゃない出来事の一つだったのに…それも嘘だった…自分に自分がうそをついていたことに何年も気づくことができなかった…いつだってお母さんは怒った顔しか思い出せないな…‘ペランダ’毎日毎晩怒って僕をたたいたり殴ったりけったり…裸にして一晩中立たせて…‘ペランダ’に正座させて…トイレだって行かせてもらえなかった…家は僕自身が自分を閉じ込めていかなければいけない場所。腫れあがった顔にままだ学校にいくと友達はみんなびくびくして心配してくれた。でもお母さんに殴られたことは友達には絶対に言いたくなかった。先生にも言えなかった。でも先生には気づいてほしかった。先生、僕にもっといろんなことを聞いてよ。腫れあがった部分の理由を聞いてよ。先生しか僕を助けられないよ。先生、僕の家は地獄だよ。先生助けて。先生助けて。先生助けて。心の中で僕はいつも叫んでいた。いつも…いつも…いつも…でも僕は声に出して助けてとただの一度も言えなかった…変わりに…僕の口から出る言葉は嘘ばかり…そして先生は僕を叱る…どうして嘘ばかりつくだ！嘘をついたら誰も君を信じてくれないぞ！君を大切に思ってくれないぞ！僕は先生にひどい言葉を言ってしまう。席に座って授業も聞いていられなかった。自分を自分でコントロールできなくなる。口からでるのはうそばかり。ひっこみがきかなくなるうそをつき。親や先生にしかられ。馬頭をされ。友達には見放されていく…それでも僕はうそをつくことが辞められなかった。うそをつくことを辞めるのが怖かった。本当は本当のことを話せる自分になりたかった。

6. 2020 年度子ども・子育てケア PJ 事業計画策定にあたって…

たたかう子ども・子育てケア PJ を目指して

※たたかう=社会を変える

子ども・子育てケア分野の仕事が、100 億の事業高と 3000 人の就労者に到達した（センター事業団）。

2 年後に法律が実施される現在の労働者協同組合法制化時代の中で、労協連の役割と子ども・子育ての歴史的経過を踏まえ、組合員や事業所、そして社会の期待に応えきる子ども・子育て事業とはどうあるべきなのか—そのことを鮮明にしたスローガンをたてた。法案の推進力としての子ども・子育てケアを 2020 年度はつくる。法案の基本原理に、「意見表面権」があり、社会から求められ期待されることになる。一つひとつの現場事業所の運営に、子どもの声、親の声、仲間の声、そして地域の声を事業所の運営や子どもを中心にした地域づくりに反映することがより一層大切になる。新型コロナウイルスと AI の状況の中で、大失業時代に入る。子どもの貧困、親の失業問題、地方公共団体の税収が減るなど様々な動きがでてくるだろう。その時こそ、協同労働の出番で、社会的な役割や重さを再認識したい。その意味でも社会を変える子ども・子育て事業部を創造していくことが、労協連にとってだけでなく、社会にとっても大事な年になることを基本認識としてもとう。

○労働者協同組合法と子どもの未来—

- 1)労働者協同組合法＝自分の暮らし方（働き方・生き方） ※まちに暮らしの種を蒔く＝子どもが安心して育つ社会
- 2)子どもの未来＝子ども主体 ※協同労働と子どもの未来の関係性を深める

■問い

- 1)子どもをとりまく状況が悪化をしている ※親、家族、地域の困難(特に、一人親家庭)
- 2)どうにかしたい人が増えている ※子ども食堂、フードバンク、学習支援、多様な居場所など
- 3)法制化＝1)協同労働 2)地域づくり 3)協同組合がつくれる時代 ※市民ワークス(広島プラットホーム、中志津…)

■現場の課題

- 1)子どもと親の困難を受け止め仕事おこし・みんなのおうちづくりへ ※子どもが育つ地域づくりへ
- 2)協同労働とは何か…どうしたらできるのか…協同労働の子育てとは何か… ※子ども主体
- 3)現場をみんなのおうちに…地域にみんなのおうちを… ※全組合員経営と社会連帯経営

■実践的な課題

1)みんなのおうちづくり・協同総合福祉拠点

- ・子ども主体 子どもの声を聴く 一人の困ったからまちづくり・仕事おこし
- ・子ども・親・地域の願いを地域に発信 協同労働のよい仕事で形に 全国観点も活かす
- ・愉しみながら働き仕事を創る ※府中あおばとみんなのふくろう食堂の実践

2)小さい仕事おこしと社会連帯ワークスの組織づくり(緩やかなつながり・ネットワークづくり) ポイント:出かけていく…

- ・食農、社会的養護、一人親家庭支援(特に在宅)、相談、住まい、就労、ネボラ等
- ・子ども会等(プレイパーク) 遊び×学び×育ちのかけあわせ 主体の創造 ※副業・多能工的な働き
- ・子どもサミット、地懇、アンケート、協同労働講座、子育てサポーター講座、地域学校協同活動、地域子育て支援拠点

3)团づくりの基本は子どもを中心においた日々のコミュニケーション(対話)

- ・子どもの変化・成長、親の悩みや願い、地域の課題、そして仲間の変化・成長 団会議でも…
- ・子どもの記録と学習研修を团づくりの柱に ※子育て指針等も活用 実践の意味づけ
- ・組合員が働く上での願い・思いを大事にしての運動や事業を展開していく

7. 協同労働の子育ち指針 ※指針なので解釈的なことは書いていません…

○何の為の指針なのかー

- 子どもたちの権利を守る
- 協同労働の実践の自由を守る

○何でつくったのかー

- 保育観の共有　こだわり…
- 協同労働の保育とは何か…

○指針の持つイメージ

- 子どもが育つ地域づくり　※どんな社会を子どもたちに残すのか…
- 子どもを真ん中にすわる社会をつくる

○「子育て」ではなく「子育ち」の言葉

- 根源的自発性　子どもは自ら活発に育っている　自分で変わる力を持っている
- 子どもは未来をつくる主体　子どもの主体性や思い　自分の力で変わっていく

○冒頭の言葉…子どもたちは未来そのものです…

- 日本は先進国の中でもっとも子どもの表情が乏しい…
- 自己肯定感が持てない若者が多い　自信がもてない　点数で序列　孤立し狭い世界の中

○協同労働の子育ち指針の骨格

- 大田堯先生のお考え方が柱に
- 命の3つの特徴　「違い」　「自ら変わる」　「かかわり」　※別紙「子どもの社会化」

○協同労働の子育ち5つの指針に現場の実践のキーワード(一部)

- 当事者主体　あなたはあなたのままでいい　子どもがありのままでいられる
どういった実践のことをいうのか…実践で深めていこう
子ども自身がどういう社会を望むのか…　子どもから学ぶ姿勢を大事に…
- 親育ち　もう少し重視し意識化する必要がある　親ととことん向き合う実践
親自身が変わっていくことを大事に　親自身の悩み・不安・孤立・情報・病気・貧困
そういう親と共に育ちあう　親が育つ保育園の理念　一人親家庭
- 安心して失敗できる場と関係性
リスクマネジメント社会　現場で議論を　何かあったら…　※西川正先生　別紙
行き過ぎると何もさせない保育になる　挑戦できる権利が子ども自身にある
- 遊び　子どもにとって遊びは仕事　遊びを大事にする
子どもにとって遊ぶ友達や時間がなくなっている
子どもだけで遊べるように　夢中になる　没頭したり…

■大田堯先生より…

- 子どもの「失業」を強調…「遊び」は子どもの本業　大人の仕事への子どもの不参加
1)大人になる要件　2)遺伝子にインプットされ内発的で本能的　3)自分を守る　4)外の環境に適応する為
社会をつくるうえでは仲間関係が必要　仲間と一緒に遊ぶ　感性を分かち合う　社会と文化に適応
- 今の子どもたちは自然から遠ざけられ、人との関わりを奪われている　ゲーム等
生き物として根源的に依拠している土とか水との付き合い方などの経験が遠のいている
自然に近づくる仕事を　自然を子どもに近づくるような仕事　子どものために活用できるように…

8. 2.8・9 地域子育てフォーラム 2020 より…

子どもを守り 社会を変える 地域子育てフォーラム 2020



○石川翔太さん

- ・家出→HR→WC 出会→食住・労働→池袋西口の仲間→自分より大変な仲間→WNR みんなのうちに
- ・今の仕事を頑張って仲間を増やしたい!利用者や地域の相手を知ること!相手に興味や関心を持つこと!

○吉川未知さん

- ・3人の子育ての真っ最中→1軒屋の居場所に連れていって助かっている…
- ・夢は山の仕事を仲間とやりたい!働きながら環境を考えたい!自然界との役割を生活やコミュニティの中でも!

○竹森幸太さん

- ・登米での経験の中で「自分たちの暮らしや生活の中に仕事があった…」聞き書き×障害者の就労を
- ・協同労働で支え合って助け合って働くことは自然なこと…同世代に気兼ねなく話せるようになりたい!

○上野宗則さん(ゆっくり小学校ようむ員)

- ・対立することが今の社会を生んだ…答えのない問… ※小さいのちの目線…金子みすずの詩から…絵本をぜひ!
- ・山口イジ アショア…コンビニに喜ぶ人達に寄り添いたい為賛成の集会…左翼からつるし上げ…女性陣が保護

○辻信一先生(明治学院大学教授・文化人類学)

- ・子ども一人を育てるには村がいる… ※村=今の社会を変える=いのちを中心にした社会=大田先生教育学
- ・文化3要素…ローカル コミュナル エコロジー イタリアでチッタスロー運動…自分たちで町をデザイン ※WCは文化を作り直す人々
- ・アンラソン…学びほぐす・ほどく→編み直す(鶴見俊輔氏) スロー…学校は元々は休暇余暇自由時間だった!

○その他…1) 環境と経済をむすぶ運動と事業を生活や働くこととつなげて…

2) 人間のすごさは弱さにある…

3) 人はアーティスト…

4) 社会の変え方を深めていく…

※楽しいことから…まじわる…かけあわせる…

